

古居みずえドキュメンタリー映画を支援する会 通信

2006年1月21日 発行

事務局からのご挨拶

2006年が始まりました。
今年は、古居みずえ・第1回監督作品

『**ガーダ ～パレスチナの詩～**』が

多くの人々に届き、評価される年になると信じています。2005年3月に「古居みずえドキュメンタリー映画支援の会」を立ち上げ、多くの方々からご協力をいただいています。本当にありがとうございます。

呼びかけ人の皆さまのご協力で、さまざまな分野・地域の方々からチラシやメールで支援の会へのカンパご協力をお願いすることができました。また、古居さん自身が講演し、参加する集会などでも、映画作りについてのお知らせをしてご協力をお願いして参りました。その呼びかけに多くの方々

が応えてくださり、これまでに、150万円ほどのカンパが集まりました。編集に関わる費用や追取材費として、古居作品を支えています。

これから、第1回目の作品の5月の一般公開（東京・渋谷 アップリンクにて）に向け、広報活動等、たくさんの費用がかかるようですが、支援の会では（その全てを支援することはなかなか難しいのですが）一部分でも古居さんの作品が多くの人々のところに届くよう、協力していく予定です。

年頭にあたり、これまで、ご協力いただいた皆さまには、心から感謝を申し上げますとともに、今後の活動への更なるご協力をお願い申し上げます。

発起人 土井幸美

* 古居さんの映画を広めていくためにも * *

古居さんを囲んでの座談会を企画してみませんか？

支援の会では、古居みずえさんを招いての座談会を企画・実施して下さる方を募集しています。古居さんとパレスチナやそこに生きる女性たち、子どもたちのお話をじっくり聞くことができます。

ご自分の仲間やグループで開催してみたいな、と思われる方は、事務局までご相談ください。

（古居さんの交通費等は、グループでご負担いただくこととなります。）

古居みずえ ドキュメンタリー映画支援の会 事務局 代表：土井幸美・北林岳彦

連絡先 メール eigaseisakushien@hotmail.co.jp Fax 045-311-3772



古居みずえさんからのメッセージ

～ 『ガーダ』完成にあたって～

この度、かねてから編集を重ねてきましたパレスチナのドキュメンタリー映画『ガーダ - パレスチナの詩 - 』が完成いたしました。これも一重に皆様の支援と励ましで、できあがったといえます。

映画の今後の展開について、皆様にお話させていただきます。映画の公開形式についてまず劇場公開を行い、それから地方上映会や自主上映会を設定することを考えております。はじめから自主上映という形ですることも考えましたが、いろいろな層の、いろいろな年代の、パレスチナを全然知らないという人たちにもみていただくために、あえて劇場公開を先にと考えました。

「古居みずえ ドキュメンタリー映画支援の会」は、古居が映画制作をするにあたって、経済的、人材的な支援をしてくださっています。上映実行委員会という方法もありましたが、上映委員会であれば、出資者を募り、委員会で事前上映会や地方での上映運動の呼びかけを行なわなければなりません。「古居みずえ ドキュメンタリー映画支援の会」では、映画を配給したり、全国展開をしたりする余裕がないという判断があり、こういう形になりました。

そして映画は制作だけではだめで、制作後、どのように広めていくかということをやらねばならず、それは私個人ではとてもできることではなく、そこで今回は、編集、製作、プロデュースを『A』『A 2』や『Little Birds』の安岡フィルムズに、そして配給、宣伝をバイオタイドという会社にお任せすることになりました。

いろいろ事前の説明不足などあったことを深くお詫びいたします。

これからはできる限りたくさんの方々に観ていただき、そして日本だけでなく、さらに世界へももって行きたいと思っています。

一日も早く、全国の上映会をやりたいのですが、上記の目的のためにはまず、ご説明致しました方法でやろうとしています。

どうかご理解のうえ、益々のご協力をたまわりますよう、お願いいたします。

古居みずえ

2006年1月21日

通信の終わりに

……発起人 北林岳彦より

今回の『支援する会 通信』でも触れましたように、古居さんの膨大なフィルム・ストックから、最初の作品『ガーダ パレスチナの詩』が産み出され、いよいよ皆様に見ていただく時が近づいて参りました。改めて、これまでのご支援にお礼を申し上げたいと存じます。

映画というものは、制作が終わっても、安心してその門出を喜べるというものではないようです。まず、いかにしてより多くの人びとに見ていただけるような設定を準備するか、簡単に言うならば、劇場を確保し、より足を運んでいただけるような日程を勝ち取るか、そして広く世の中に報せてどんなに作品がすばらしいかを訴えなければなりません。そのために、真価を見抜け批評に長けたパーソナリティーに試写を観ていただくかといったことも大事なのです。

現在、パレスチナ現地、なかんづくガザは混乱の中にあります。ジャーナリズムやアメリカ政府はイスラム勢力の伸張を警戒する声ばかりを上げていますが、ハマースが良かれ悪しかれ、イスラエルのガザ撤退後初めての選挙でパレスチナ自身が方向を選ぼうとしているのです。中にはがっかりするようなニュースもあります。しかし、かつて日本で国会が開設された当時などの様子を振り返ってみれば、ようやく始まったパレスチナの民主的政治過程を、長い目で見守ることが必要であり、また政治的な動きに一喜一憂するのではなく、日常を生きるパレスチナの人びとに思いを馳せることが大事だと考えさせられます。そのためにも、この『ガーダ』が果たせる役割は大きいはずです。

支援していただいている方がたは日本全国におられます。映画の上映を心待ちにしている方がたも各地におられます。早く、全国のどこでも上映会が開けるようにして、ご支援にお応えしたいと心は逸りますが、メディアや各界の注目・関心、さらに高い評価を獲得すること、そしてやはり興行的な成果を出すことが前提となっています。そし

て作品の評価を早い段階で勝ち取るためには、まず東京でのロードショーの成績が決め手になるとのことです。

幸い、配給会社の尽力によって劇場は確保され、5月には上映できる目途が立ちました。

この東京での公開を成功させることが、『ガーダ』のより広い劇場公開と上映展開への条件となっています。ぜひ、関東地方にお住まいの皆さんには周囲の方がたへお誘いのうえ劇場へお運びいただき、また遠隔地の皆さんにも恐縮ではありますが、機会を活かして観ていただける事を切望しています。

そして、評価を獲得することができたならば、こんどは、各地域で上映会を企画していただけるような流れを創りたいと思っています。

配給会社では、地域での自主上映にも対応することができます。『ガーダ』の劇場公開が成果を上げて終了したならば、「支援する会」としてもフィルムの貸し出しに関する情報を提供し、各地でこの映像を観ることができるよう、努力して参ります。

そのことが、パレスチナとそこに生きる人びとの姿を知る機会を拓げていくのだとしたら、しかしなおかつ「占領」が刻んだ傷の大きさを知らしめるのだとしたら、『ガーダ』の上映の機会を増やしていくことは極めて多様な意義を含んだものとなるはずです。

そして、コミュニティや文化という根っこを喪失しかけて、憲法を戦争や集団的自衛権を肯うように改変させられようとしている我われの社会を照射し、あるいは果たして日本の社会が女性や若者の人権や実存を保障しているだろうかということも問い直すことにもつながっていくでしょう。

ぜひ、劇場公開を成功させ、

また古居さんの仕事を広く世に知らせ、

今後の彼女の活躍を励ましましょう。